

アメリカ合衆国の未臨界核実験に強く抗議する

2010年10月15日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

Physicians Against Nuclear War (PANW)

代表世話人 児島 徹

中川 武夫

山上 紘志

事務局長 松井 和夫

報道によれば、アメリカ合衆国政府は、9月15日にネバダ州の核実験場で未臨界核実験「バックス」実施を明らかにしたとされています。

未臨界核実験は、新型核兵器や既存核兵器の改良・維持を目的として行うもので、爆発を伴わないことから包括的核実験禁止条約(CTBT)の対象外とされていますが、核軍縮と核兵器廃絶を目指している同条約の精神にも反します。

オバマアメリカ合衆国大統領は、昨年4月プラハ演説で「核兵器を使用した唯一の国としての道義的責任」に言及し、「核兵器のない世界を」目指すと述べました。その呼びかけに応じて、本年5月のNPT再検討会議はじめ、核兵器廃絶が国際政治の現実的課題に浮上しつつあります。

オバマ政権が未臨界核実験を実施したことは、明らかに「核兵器のない世界」に逆行するもので、被爆者をはじめ核兵器廃絶を切望する世界の多くの人々の期待や願いを裏切るものと断ぜざるをえません。

私たち反核医師の会は、すべての人の健康を守るという医師・歯科医師の社会的責務と良心から、核戦争に反対し核兵器廃絶の実現をめざし運動しているものとして、今回のアメリカ合衆国の未臨界核実験に強く抗議するとともに、今後予定されている核実験を中止し、アメリカ政府がオバマ大統領のプラハ演説に責任もって核兵器廃絶の先頭に立つよう強く要請するものです。